

株式会社ソフトフロント
代表取締役社長 阪口 克彦
(証券コード番号:2321)

ソフトフロントのSIPミドルウェアが 富士ゼロックスのデジタル複合機に採用 ～低コストで高い信頼性を確保するIPファクス機能を実現～

株式会社ソフトフロント(東京本社:東京都港区 代表取締役社長:阪口 克彦 以下、ソフトフロント)は、富士ゼロックス株式会社(本社:東京都港区 代表取締役社長:山本 忠人氏 以下、富士ゼロックス)のオフィス向けフルカラーデジタル複合機 ApeosPort-III C および DocuCentre-III C シリーズ 12 機種とモノクロデジタル複合機 ApeosPort-III および DocuCentre-III シリーズ 10 機種の計 22 機種に、オプション搭載可能な IP ファクス機能にソフトフロントの SIP ミドルウェアが採用されたことを発表いたします。

●FAX が求める接続安定性をソフトフロントの SIP が実現

近年、設備コスト節減の観点から IP 電話の導入をはじめとしたオフィス環境の IP 化が進められています。オフィスにおける IP 電話の導入は年々その数を増していますが、一方でファクス通信においては、ドキュメントを遅延なく、かつ確実に送受信する必要があるため、従来の電話回線が利用されている状況です。このため、IP 電話導入企業では従来の電話回線と IP 回線を混在利用している場合が多く、オフィス環境における電話関連設備の IP 化は普及途中となっているのが現状です。ファクス機能の IP 化には、従来の電話回線と同等の安定的な接続品質を確保することが最重要課題となっています。

ソフトフロントの SIP ミドルウェアは、SIP の標準化活動や接続試験等への参加により、国内外の各種 SIP サーバとの接続実績を誇り、また多くの商用実績を通じて、高い接続安定性を実現しています。これらの点が評価され、この度、富士ゼロックスのデジタル複合機上での IP ファクス機能の実現に採用されました。

●トータルコスト削減を可能にする IP ファクス

ソフトフロントの SIP ミドルウェアが搭載された富士ゼロックスのデジタル複合機は、これまでの IP ファクスの課題であった接続性や安定性を解決した信頼性の高い IP ファクス機能を実現しています。

これにより、IP 網ならではの低コストでのファクス通信が可能になります。さらに、導入した企業では、これまで電話回線と IP 回線とが混在していたネットワーク環境を一元的に管理することが可能になり、通信費・管理費の両面からトータルにコスト削減を図ることができます。

ソフトフロントでは SIP を利用した IP ファクスの普及促進のため、将来的な SIP 拡張にも対応できるよう、今後も積極的な技術の向上を図り、普及活動を推進して参ります。

【プロフィール】

株式会社ソフトフロント

1997年設立の SIP と VoIP を核技術としたソフトウェア開発企業です。IP 電話や第三代携帯電話で通信プロトコルとして採用されている SIP に早くから注目し、SIP/VoIP 関連技術の開発に注力してまいりました。現在は、今まで培ってきた様々な技術やノウハウをもとに、NGN(次世代 IP ネットワーク)構想の本格化にあわせ、携帯電話などの各種通信機器メーカー、情報家電機器メーカーや通信事業者に SIP/VoIP ミドルウェア・ソリューションの提供を行い、競争力の高い最終製品/サービスの効率的な開発を支援しております。

URL: <http://www.softfront.co.jp>

【リリースに関するお問合せ先】

株式会社ソフトフロント

経営企画室 広報担当 中村

電話:03-3568-7007 FAX:03-3568-7008

E-mail:press@softfront.co.jp

【製品に関するお問合せ先】

株式会社ソフトフロント

SIP 事業本部 営業グループ

電話:03-3568-7009 FAX:03-3568-7008